

生徒指導のなかで
はぐくむ③

“自己決定”

1

島根県教育センター
教育相談スタッフ・相談セクション

生徒指導とは

【生徒指導の定義】

社会の中で自分らしく生きることが出来る存在へと児童生徒が、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のこと

出典：「生徒指導提要」文部科学省2022年

2022年に改訂された新しい生徒指導提要。
そこには、
「生徒指導の定義」が、このように示されています。

生徒指導とは

【生徒指導の目的】

生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を**支える**と同時に、自己の**幸福追求**と**社会に受け入れられる自己実現**を**支える**。

出典：「生徒指導提要」文部科学省2022年

また、生徒指導の目的として、これまでも語られてきたことに加えて、「子どもたち自身の幸福追求」と「社会に受け入れられる自己実現」を「支える」という大きな目的も明文化されました。

生徒指導とは

すべての児童生徒が

- 幸せに
- 自分らしく
- 伸びていく

すべての
教職員によって

“**支え、応援する**”営み

すべての子どもたちが

- ★「幸せになること」
- ★「自分らしく居られること」
- ★「自ら伸びていこうとすること」

これらを

- ★すべての教職員によって、支え、応援する営み
- ★それが「生徒指導」なのです。

生徒指導のなかではぐくむ③

“自己決定”



生徒指導のなかではぐくむ③
今回は「自己決定」をテーマに
みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

生徒指導の実践上の視点

児童生徒一人一人が**自己指導能力**を
獲得するには (~中略~) **自ら考え、選択し、**
決定する (~中略~) **体験**が何より重要

出典：「生徒指導提要」文部科学省2022年

改訂された生徒指導提要には、生徒指導・実践上の視点の1つとして

「児童生徒一人一人が自己指導能力を獲得するには、自ら考え、選択し、決定する、そのような体験が何より重要である」と示されています。

自己指導能力とは

自分で
考える
判断する
選ぶ
決める etc.



自分の意思で
行動する

- 幸せに
- 自分らしく
- 伸びていく

自己指導能力とは、
★そのときその場で、どのような行動が適切であるかを自分で考え、決め、
★自分の意思で★行動していく力のことを言います。

子どもたち一人一人が、
★自分の人生を、自分の力で歩み、
よりよい方向へ進んでいくために必要な力
それが「自己指導能力」であると言えるでしょう。

子どもたちの
自己指導能力をはぐくむために

- ・人とのかかわり
- ・学習活動
- ・特別活動 etc.



学校生活のなかで

“自己決定”の体験を積み重ねる

“自己決定”の場の提供を

生徒指導提要にも示されているように、
自己指導能力は、★日々の暮らしにおいて「自己決定の体験」を
積み重ねることによって、はぐくまれていくものです。

★さまざまな人とのかかわりや学習活動を経験する学校生活のなかで、
私たち教職員が、★「自己決定」の場を提供し、
子どもたちに経験させていくことが重要であるといえます。

“自己決定”の場だけ提供しても…

自分で
考えてごらん



教職員

自分で
決めてみよう

あなたの
考えや気持ちを
話して

…

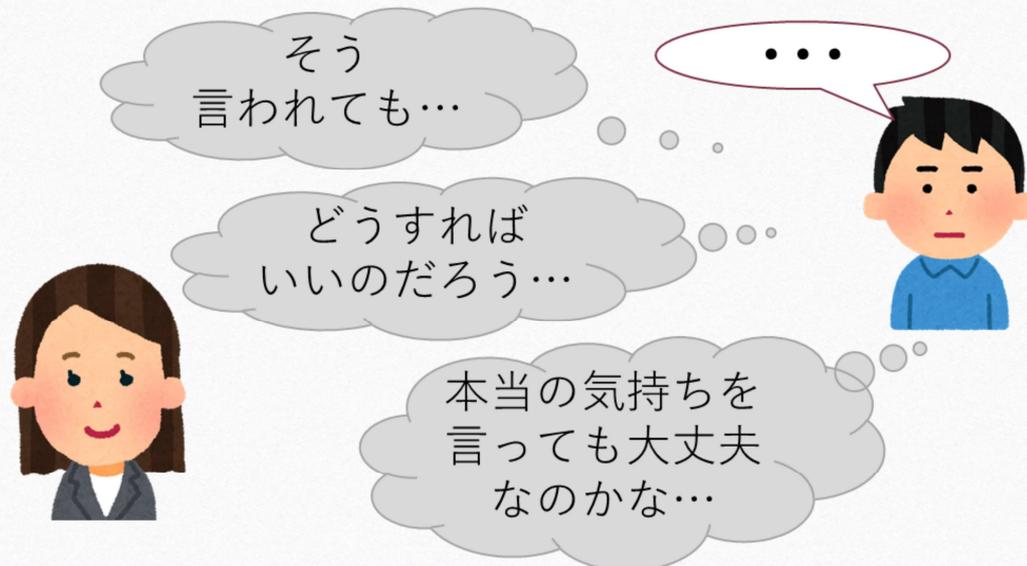


子ども

この「自己決定の場の提供」をしていくうえで、
持っておきたい視点があります。

私たち教職員が、★子どもたちに対して
このような声かけをしたときに、
すべての子どもたちがこの声かけに応じ、
★即座に自己決定できるとは限らないということ。

“自己決定”の場だけ提供しても…



「そう言われても・・・」
「どうすればいいのだろう？」と
戸惑う子どもも、中にはいるかもしれません。

自己決定は、その「場の提供」だけすれば、うまくいくというものではないのです。

“自己決定”のために必要なもの



信頼感

安全感

安心感



- 自己決定を促す**教職員との関係性**
- 自己決定の**場(学級等)**

子どもたちが自己決定をしていくためには、
そのベースとなる大切なことがあります。

それは、★その子ども自身に「安心や安全を感じられる心の状態」があるということ。

★自己決定を促す教職員との間に、まず安心感や信頼感があるかどうか。
そして、自己決定をしようとするその「場」に対して、安全や安心の感覚をもつ
ことができているかどうか。

内面に、このような感覚がまずある、ということが、
子どもの自己決定を支えるといえるでしょう。

【ケーススタディ】

小学校6年生男子児童Aさんは、6月に入ってから、突然学校を欠席し始めました。そして、そのまま1学期は登校することなく夏休みを迎えてしまいました。

2学期になるとAさんは、週に2日か3日、午前中のみ、相談室への登校ができるようになりました。教室に入ることはできませんが、少しずつ学習課題にも取り組むことができているようです。担任は休み時間には相談室に顔を出し、1日1回はAさんと会話をしよう心がけています。

では、ここでミニワークを行います。

小学校6年生男子児童Aさんの事例をもとに、考えてみましょう。

Aさんは、6月に入ってから、突然学校を欠席し始めました。そして、そのまま1学期は登校することなく夏休みを迎えてしまいました。2学期になるとAさんは、週に2日か3日、午前中のみ、相談室への登校ができるようになりました。教室に入ることはできませんが、少しずつ学習課題にも取り組むことができているようです。担任は休み時間には相談室に顔を出し、1日1回はAさんと会話をしよう心がけています。

ミニ
ワーク

【ケーススタディ】

Aさんが相談室登校をするようになって1ヶ月ほど経過したある日の、担任とAさんのやりとりを見てみましょう。



担任



Aさん

Aさんが相談室登校をするようになって1ヶ月ほど経過したある日の、担任とAさんのやりとりを見てみましょう。



Aさん、おはよう

おはようございます



今日はこの算数プリントを
やってみよう。
たくさんあるから頑張っ
てね。

はい…





Aさん、今日は何時に来たの？

9時すぎです。



そうなんだ。
1時間目の始まりは8時45分だよね。
そろそろ、その時間までには
来れるようになるといいよねえ。

はあ…





あ、そうそう。校内音楽会で
歌う曲が決まったのよ。

・・・
(少し下を向く)



最近、クラスのみんな、音楽会
に向けて、すごく練習を頑張っ
ているの。

・・・





クラスのみんなも頑張ってるから、
Aさんも、もう少しだけ、頑張ってみない？

・・・
(表情がくもる)



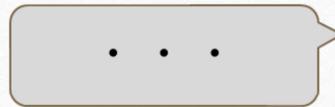
そうねえ、例えば、算数の授業
だけでも、教室で受けてみるとか。
どう？

・・・

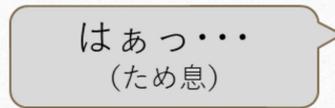




あっ、そうだ！明日は1時間目に算数があるからちょうどいいわ！間に合うように、8時45分までに来るといいよね。待ってるからね。



じゃ、また明日ね。



ミニ
ワーク

事例を通して考えてみましょう

～Aさんの自己決定という視点で事例を見つめる～

- ・ Aさんと担任のやりとりから気づくことは？
- ・ Aさんが自己決定できるようになるには、どんなことを大事にしていけばよいのか？
- ・ 自分ならどうかかわるか 等 思いや考えを箇条書きしてみましょう

* ペアやグループでこの内容について話をしてみましょう。

では、この事例を、Aさんの「自己決定」という視点で見つめてみましょう。

先ほどのやりとりの様子から気づいたこと、感じたこと、
Aさんが自己決定できるようになるには、どんなことを大事にしていけばよいの
か

自分ならAさんにどうかかわるか など、
思いや考えをシートに箇条書きしてみましょう。

書き終わったら、ペアやグループで話し合ってみましょう。

記入している間、動画は一旦停止してください。
話し合いが終わったら、動画の続きをご覧ください。

ミニ
ワーク

事例を通して考えてみましょう

～Aさんの自己決定という視点で事例を見つめる～

- ・Aさん
- ・Aさん
- ・自分

動画は一旦停止



記入→話し合い

のか？

* ペアやグループでこの内容について話をしてみましょう。

事例の担任のかかわりは…

- ▲一方的な語りかけや提案
- ▲Aさんの思いを確かめない
- ▲担任としての思いだけで、教室
に向かわせようとする
- ▲他の子どもと比較をする
- ▲Aさんの態度や表情から伝わる
思いを感じとろうとしない



では、ミニワークの事例を振り返ってみたいと思います。

★事例の担任は、やりとりのなかで、Aさんが自分の言葉で語ろうとするまで待とうとする姿勢があまりなく、矢継ぎ早に、語り掛けを行っていました。

また、Aさん自身の思いを確かめることをせず、担任としての自分の思いだけで、Aさんを教室に向かわせようともしていました。

「クラスみんなも頑張っているから、あなたももう少し頑張ろう」という担任の言葉がけに対して、Aさんの表情が曇っているのにも関わらず、一方的に提案を続けた担任に対して、Aさんは何も言うことができませんでした。

Aさんの心の中は…

不安 不信
モヤモヤ 緊張感
がっかり
エネルギー低下



このやり取りのあと、★
Aさんの心の中は、安全や安心の感覚とは真逆の心の状態になっていることが
想像されるのではないのでしょうか。

“自己決定”のために必要なもの



安全感

信頼感

安心感



子どもたちの自己決定のためには、
最初に述べたように、
子どもたちの内面に、このような感覚が育まれていることが大切です。

これらの感覚がはぐくまれてはじめて、
子どもたちは“自己決定”ができるのです。

子どもの“自己決定”のために

「日常生活の中での 小さな自己決定＋大人の応援」



立命館大学 春日井敏之

R4「不登校の理解と支援講座」島根県教育センター

立命館大学の春日井敏之氏は、
子どもの自己決定に関して、
「応援付きの自己決定」という表現を用い、
大切にしたいことを2点述べています。

子どもの“自己決定”のために

「日常生活の中での 小さな自己決定＋大人の応援」

- ①まずは**日々の暮らしの中で、ささやかな自己決定**から経験を積み重ねることが大切。

1点目は、

★まずは、日常の暮らしの中で、ささやかなことから、自己決定の経験を積み重ねることが大切であるということ。

大きな自己決定をするための力は、幼いころから、発達段階に応じて、暮らしの中で小さな自己決定の経験をどれだけ積み重ねてきたかによってついていくものであると言われます。

子どもの“自己決定”のために

「日常生活の中での 小さな自己決定＋大人の応援」

- ②自己決定の場が提供されることに加え、
「大人の応援つき」であることが大切。

「応援」＝子どもの自己決定を
支えるための大人のかかわり

2点目は、

★自己決定には、その場の提供だけでなく、「大人の応援」が大切であるということ。

「応援」という言葉からは、直接的な励ましや声かけを連想する方も多いかもしれませんが、

けれども、ここで言われている「大人の応援」とは、そのような働きかけのことだけを指している訳ではありません。

★子どもの自己決定を「支える」という大人のかかわりのすべて。それを春日井氏は「大人の応援」という言葉を用いて表現しているのです。

いくつか例を挙げてみましょう。

子どもの“自己決定”を支える

大人の応援とは…

- 「伝える」の前に「**聴く**」ことから
～**対話的・共感的**な関係を
- その子自身の**思いや願い**を
大事にしてかかわること



例えば・・・

★大人の側が、自分の考えや思いを「伝える」だけでなく、子どもの話を「聴く」ということも、同時に大切に、対話的、共感的な関係を築こうとすること。

★子どもの思いや願いを大事にしながらかかわること。

子どもの“自己決定”を支える

大人の応援とは…

- 提案するときは、その子の**思いを丁寧に確かめ**ながら
- 子どもが自分で選んだり、決めたりできるような**提案の仕方の工夫**を



★何かを提案するときには、その提案に対して子ども自身がどんな思いを抱いているかを丁寧に確かめようとする。

★大人から提案するときには、選択肢を示すなど、子どもが選んだり決めたりしやすくなるような工夫をすること。

子どもの“自己決定”を支える
大人の応援とは…

○ 「No」も含めて、その子の
選択を尊重する

- ↓
- ・ その選択をした子どもの「思い」は
まず否定せず受け止めること



★ 「No」という意思表示を子どもがしたときに、
それも、その子自身の自己決定、自己選択として、尊重すること。

それは、★その選択をしたその理由やその子なりの思いは、まず否定せずに、
耳を傾け、受け止めていくということ。

子どもの“自己決定”を支える

大人の応援とは…

- 大人側が**焦らない**
- 他の子どもと**比較をしない**
- 「**頑張らせること**」
「**無理させすぎないこと**」
どちらの視点ももって



★目に見える変化や回復を、大人のほうが求めすぎず、焦らないこと。

★他の子どもと比較をしないこと。

★「頑張らせる」という視点と同時に「無理させすぎない」という視点ももち、今のその子どもの状態や発達の段階に合わせた、ほどよいかかわりをしていくこと。

子どもの“自己決定”のために

「日常生活の中での 小さな自己決定＋大人の応援」

- ・できそうなこと
- ・すでにやっていること
- など

★時間があれば考えたり話し合ったりしてみましょう



この他にも、
子どもの自己決定を支える大人の応援の在り方には
さまざまなことが考えられると思います。
時間があれば、これについても、考え、話し合いをしてみるとよいでしょう。



最後に、工藤勇一氏の提唱する
子どもに自己決定を促す3つの言葉かけを紹介し、本プログラムを終了します。

その
1

子どもに自己決定を促す 「3つの言葉」 (工藤勇一)

どうしたの？

- ・ 子どもが、今置かれている状態を自分の言葉で言語化するのを促す声かけ
- ・ 自分の内面に目を向けるきっかけにもなる

自己決定を促す言葉かけその1
「どうしたの？」

その
2

子どもに自己決定を促す 「3つの言葉」 (工藤勇一)

あなたは どうしたい？

- ・ 子どもの意思を確認するための声かけ
- ・ 自分の状態を「今よりよくするための方法」を子どもが自分で考えるきっかけに
- ・ 「あなたの意思を尊重しますよ」というメッセージにもなる

その2

「あなたは どうしたいの？」

その
3

子どもに自己決定を促す 「3つの言葉」 (工藤勇一)

先生にできることはある？

- ・ 問題解決の手助けをするための声かけ
- ・ この言葉 + 選択肢 という使い方も可能
- ・ 「先生はあなたの味方だよ」とメッセージにもなる

その3
「先生にできることはある？」



- ★子どもたち一人一人の小さな自己決定を大切にしようとする私たち大人の姿勢が、
- ★子どもたちの心をはぐくみ、
- ★そして、それが基盤となって、主体的に考え、判断し、
- ★行動する力へとつながっていきます。

学校生活のなかで

さまざまな自己決定の機会を

人との
かかわり

特別活動

学習活動

その他
学校生活の
あらゆる場面で

部活動

学校生活のあらゆる場面で、
子どもたちの自己決定を大切にすることを通して、
子どもたちの成長・発達を支えていきたいものです。

生徒指導とは

すべての児童生徒が

- 幸せに
- 自分らしく
- 伸びていく

すべての
教職員によって

“**支え、応援する**”営み

すべての子どもたちの
幸せと成長を願って

日々の生徒指導を通して、
教職員みんなで、
子どもたちを支え、応援していくことができますように。

生徒指導のなかではぐくむ③ “自己決定”



【参考・引用】

- ・生徒指導提要（文部科学省）2022年
- ・リーフレット 教室に入りにくい子どもを校内で支える（島根県教育センター）2018年
- ・自律する子の育て方（工藤勇一・青砥瑞人）2021年 S B新書
- ・10年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方（木村泰子）2020年 青春出版社
- ・不登校 親子のための教科書（今村久美）2023年 ダイヤモンド社
- ・希望としての教育（春日井敏之）2002年 三学出版

【BGM】

- ・甘茶の音楽工房 <https://amachamusic.chagasi.com>

以上で本研修プログラムは終了となります。
お疲れ様でした。